



行政だけに頼らない 市民防災をめざして —防災士が果たすべき役割—



宮城県石巻市防災士協議会
会長 井上 達彦

令和元年5月、地域在住の防災士有志で結成したボランティア団体です。個人の力は小さくとも、団体として活動することにより活動の量も質も高められると考え、該当者に2度のアンケート調査を実施し、防災士資格取得後の活動状況や今後の展望などを把握し、同じ思いの仲間を支えられ3年の歳月をかけ結成しました。宮城県の市町村単位では初の防災士組織であり、現在の会員数130名です。

全員が大震災の実体験を有していることから防災への意識関心は高く、行政と市民との橋渡し役を自負し、市民自らの手で行動することに誇りを持っています。

東日本大震災では最大被災地となった石巻市ですが、二度と人的被害を繰り返さないためにも、市民自らが日常生活の中で防災・減災の意識を高く持ち、備えることの重要性を常に働きかけることが大切と考え、当協議会では5本の柱を活動の中心に据えています。

1 市民の防災意識向上

街頭啓発活動や各種イベントでのブース展示等を通して、各行政機関や日本公衆電話会等と連携し、情報の提供や体験の機会を年5～6回行っている。また、4年前から地元FMラジオ局と連携し、毎月1回「みんなの防災サロン」という番組を共同制作し、会員が交代で石巻市防災士協議会の取り組みや各自の得意分野・被災経験か

らのアドバイス等を放送しています。

さらに当協議会のホームページを開設し、日々の活動を「防災士ブログ」として情報発信しています。

2 石巻市教育委員会との連携

全ての児童生徒が東日本大震災以後の世代になり、益々防災教育が重要度を増すと考え、石巻市教育委員会と連携し小中学校での防災訓練や避難所開設訓練、防災教室等を開催し、児童生徒への防災教育と震災伝承に力を入れており、年々実施校が増えています。

3 各種団体との連携

放課後子供クラブや子供食堂等を展開するNPOと連携し、防災訓練や防災展示などを行っています。地域の町内会や老人団体、手話の会、ベビーサークルなどでの活動も行っています。

今年は日本カーシェアリング協会と連携した防災活動を模索中です。

4 地元の防災・震災伝承団体との連携

それぞれの団体ごとに活動していますが、年1回「石巻防災・震災伝承のつどい」と題し、石巻地区で活動する多くの団体が協力してイベントを開催しています。これまで3回開催し、毎年約600名の来場者を得ています。企画から運営まで自分たちで行っており参加団体の規模では他に類

を見ないと思います。

地元FMラジオ局の放送やユーチューブでもその模様は公開しています。

前は31団体が参加し、今年度は34団体を想定しています。

5 会員のスキルアップ

年1回の会員向け防災訓練や防災セミナー、普通救命講習、年2回の女性防災士のつどいを定期開催し、会員自身のスキルアップに努めています。

災害時対応訓練 (DIG)・避難所開設訓練・避難所運営訓練 (HGU)・ロープワー

ク訓練・パッククッキングなど多岐に渡る訓練も実施しています。

セミナーでは学識経験者の講演を始め、気象情報や地形から読み解くハザードマップの活用法など常にブラッシュアップできるよう機会を設けています。

令和元年の設立時は知名度ゼロ、活動実績ゼロに加え新型コロナの流行で自粛ムードと厳しい船出となりましたが、役員を中心にコツコツと活動を積み重ね、現在は行政機関や各種団体との連携も増え、会員の参加も積極的になってきました。



地域住民との避難所開設訓練



小学校での防災授業…東日本大震災の教訓



災害時用トイレ凝固実験



石巻市・防災フェアでの災害伝言ダイヤル171体験